

この編集後記を執筆しているのは9月になって夏も終わりに近づいている頃であるが、今年の夏は、前半の猛暑、後半の雨の多い天候不順とはっきり二分された感がある。毎年8月の初旬の猛暑の時期に日本脳神経外科専門医試験が行われる。私自身、試験委員を務めていた関係から、この時期は毎年ほぼ4日間ホテルと試験会場に缶詰状態で過ごしていた。委員を4年間無事務め、今年で退任することができほっとしている。現在、日本脊椎脊髄病学会と日本脊髄外科学会の間で統一された新脊椎脊髄専門医制度の発足に向けた準備が進んでいるが、参考のために日本脳神経外科学会専門医試験の試験委員の仕事について少し触れたい。試験は血管、腫瘍、脊椎・外傷・小児の3部門からなり、それぞれ10数人の試験委員で構成される。各委員の仕事は1月に筆記試験問題（約20問）、3月に口頭試問問題（3問）を作成し提出することから始まる。毎年、年末頃から問題作成の準備に取りかかる必要があるが、専門医として基本的な知識を問うためにいかに適切な問題を作成するかには毎年悩まされる。集められた問題は各部門の委員長・副委員長を中心にブラッシュアップされ周到な準備がなされ、試験期間には各委員がホテルと試験会場に缶詰状態で過ごすことになるわけである。特に試験2日目の口頭試問では2名ペアで合計9時間にわたり試験官を務めることになる。脳神経外科専門医制度はこのように各試験委員の地道な努力の上に維持されてきた。新脊椎脊髄専門医制度、試験制度の構築において何らかの参考になるかもしれない。

さて、10月号の特集は、飛驒一利先生の企画による「脊髄嚢胞性疾患に対する外科治療」である。これらの疾患は比較的まれではあるが、脊椎脊髄の占拠性病変の鑑別として重要であり、この際、あらためて知識を整理するためにもたいへん役立つものと思われる。下川宣幸先生の「Nomade」では、若い医師の教育について、ご自身の経験に基づき貴重な提言をいただいた。どの論文もたいへん読み応えのある内容であり、読書の秋にぜひ熟読していただきたい一冊である。

（高安正和）

論文外部審査委員

朝妻孝仁 嶋村 正 高橋和久 高橋啓介 松永俊二
持田譲治 山下敏彦 久保和親 庄田 基 水野順一

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

戸山芳昭（編集委員長）
青木茂樹 安藤哲朗 金 彪
園生雅弘 高安正和 田口敏彦
谷 論 徳橋泰明 花北順哉
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志
米延策雄

Vol. 28 No. 10
(2015年10月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,300円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料 30,700円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2015,

Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。